



年金者組合に入ってヨ
心のオッパイ飲んでよ
強気なガマンをしている人に
プライドがジャマな人に
ともだちが欲しい人に
飲むと元気が出るよ

四季彩々

No.23 2008年11月号 隔月発行
発行 全日本年金者組合 岐阜県本部
岐阜市美江寺町2-1教育会館内 TEL 058-266-0184
編集責任者 上 宗治
土岐市妻木町3247-195 TEL 0572-57-3250

新しい仲間を紹介

9月と10月の組合員の加入者です。

支部名	西濃	江崎 俊子 柘植 藤 伊藤ハルエ 鬼頭 礼子
多治見	宮嶋 敏明 橋本 定夫 松田 定夫 水野 和子 小島 郁代 宮田 すゞ 宮嶋 房枝 長谷川 里 伊藤恵美子 若尾 桂 松田てる子 大前 育子 加藤 久子 嶋田タカエ	
恵那	牧野 倫一 小川 妙子 唐沢 睦美 近藤 綾子 長谷川とき 志水 花代 小池 好明 山内昭子	

祝 召し上がれ



多治見支部事務局長
鈴木徳治さん

先ず！年金者組合に恋を！

多治見支部は10月に14人組合員をふやされました。そこで多治見支部の事務局長 鈴木徳治さんに「仲間づくり」について思いを寄せていただきました。

仲間づくりに寄せて

- 一、本気で年金者組合に恋をすること
- 二、目標を持つこと
- 三、対象者リストの作成
- 四、先ず行動を！
- 五、紹介してもらう
- 六、勝手に判断するな
- 七、駄目でもともと
- 八、組合の行事に誘う
- 九、義理を活用する
- 十、拡大に楽しさを感じる

私の体験から仲間づくりについての雑感を上記のようによまとめて見ました。

でも対象者であると言う大きなメリットを持った組織でもありません。わたしは組合に入会してからも、笠原町に班を作ったが、組合員6人からのスタートだったが私なりに工夫計画を立てて精いっぱいやってきた。

仲間づくりの楽しさ

11月27日(木)～28日(金) 全県交流集会 2009年 3月24日～25日 東海ブロック支部交流集会(岐阜・ホテルパーク)



土岐支部長
水野岑生さん67才

二百名山は踏破

グループ登山の時もあれば単独の時もある。二百名山のうち半数近くが単独行である。

錦織の山々に囲まれた山頂に「ヤッター」の聲が上がった。幻の怪魚「タキタロウ」が住むと云う大鳥池を懐に抱く以東岳(山形県)である。

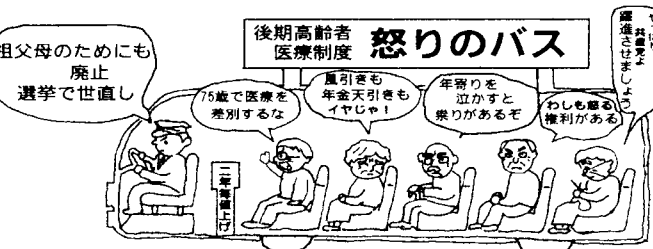
「二百名山」

最初に山に登ったのは中学二年の時に父親に連れられて登った「白馬岳」である。その時の山の感動が忘れられず、毎年登って来た。だから登山暦は50余年となる。思えば随分と長く続いたものだ。

バス一台でうば捨て山に

恵那支部では毎年「カールチャートリップ」と称するバス旅行を企画し、文化的な行事を行っています。

最後にアピール文が採択され、印象に残っているのは「全国に多くある姥捨山伝説は年寄りを養いきれない昔の痛ましい現実と共にその年寄りの知恵で難問を解決する話。しかし、後期高齢者医療制度はそういう思いは全くなく、年寄りには高いお金をかける必要はないという本音があらさまである。今日集まった私たちが山を下り、それぞれの地域で年金者一揆、世直し一揆、総選挙で世直しすることを誓い合いました。



土岐支部の熊野古道歩き、一泊二日、2万円の値打ち旅行。30人も集まりました。夕食の会場にはステージなし、カラオケ、マイクなし、新しい人が2人いる、お酒が入り食後の計画は何もない▼そこでオイヤがしゃしゃり出て司会をはじめた。「これから皆さんの失敗談を話していただきたいと思えます」と言い終わらないうちに「結婚が一番の失敗です」と女性の言葉に絶句。そして大笑いが起きました▼少し思いをめぐらせるとドンドン失敗談が出てきて、笑いを取っていきます。人の失敗談は心地いいのでしょうか、笑って、次の笑いを求めています。面白い人ほど失敗を繰り返している▼「司会者に出合ったのが失敗のはじまりでした」なぜか爆笑でした。人をけなして、お笑いをとる高度なテクニクに腰を抜かしました▼「男3人と女2人で山に登ったが、遅くなった。暗くなりはじめ、雨が降り、雷がピカーと光りゴロゴロ鳴りだした。慌てて下ったが服や靴はベタベタ、グシヨグシヨ。やつと下山、雨のなか男は車中、女はそばにあった小屋で着替えたけど、あの時、チョットどぞきたかった」▼ここで大きな笑い付き、緊張感ある話に付いた、チョイわるおやじのイロケばなしは好きです。

年金者組合 女性の暮らしのアンケート

(伝えたい思いや、願い、要求など何でも書いて下さい) からのアンケート回答のごく一部の転載です。

- 税金、保険料が高すぎる。生活が苦しい、子ども、孫などにも手と金がかかる。
- 夫が亡くなった時、年金額にすごく不安になる。
- 世間のしがらみから抜け出すことが難しい。学習を深め、独立した人間として歩みたい。
- 夫は赤字覚悟で田んぼを守っているが、高齢で明日は分からない、お先まっくら。税金、介護保険、医療保険などビックリする額、天引き同然で取られるのは腹が立つ。
- 文字が正しく書けなくなってきた。手足がしびれてきた。この先どうなるだろうと、このアンケートを書きながら「後期高齢者医療制度」の廃止を強く望んでいます。
- 将来、家の跡取りもおらず一人暮らしで不安だらけです。健康やボケのことで「青山フェニックス」を学び大変勉強になります。老人ホームに行く身ですが、なるべく行かないよう頑張れたらいいと思っています。
- 若い人達も必死で働き、日々やっとの生活の為、年輩いた親たちの面倒がみられないと思うので心配です。
- 不安だらけです。孤独死も覚悟しました。一日中だれとも、しゃべらない日もあります。

次号に続きます。

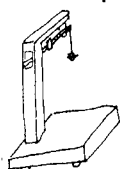
老木のひとり琴 ③

「それって何？」といわれ、戦前生まれの人からは、「今ごろ何？」といふがしがられ、中には「思い出すのも胸糞悪い」という人もいるに違いない。

「内務官僚」である。今では死語、戦前は官僚の中の官僚。各県の知事をはじめ幹部や特高を含む警察の上層部はすべてこの内務官僚が独占。国民の頭の中(思想)から大掃除まで、国民生活を丸ごと管理してきたのがこの内務官僚である。

カラスの鳴かない日はあっても厚生労働省のことがニュースにならない日はないといつてもいい。その厚生労働省の前身の一つ厚生省は、一九三八年(昭和十三年)内務省から分かれて設置されたことになる。先祖は内務省ということになる。「国民の厚生の上をはかるため」とあるが、そんなきれいなことではない。その前年に日中戦争が始まり、肝心の兵力である若者は、結核と筋骨薄弱な体位の者が

増加し、徴兵検査



国家はあっても、国民はない

では、甲種合格が減り、丙種(不合格)が増えていった。これは、農村は貧しく、都市の労働者はひどい労働条件で働かされた結果である。このことは政府・軍部にとつて一大事である。そこで、厚生省を設け、「健民健兵」を育成し、兵隊という大切な人的資源を確保しなければならなくなったというわけである。この考えには「国家はあっても、国民はない」といっている。

戦後、真っ先に内務省は廃止された。しかし、果たして内務官僚はなくなつたのか。昨今の年金や医療への厚生労働省の対応を見てみると、「国家はあっても、国民はない」という考えは生きてるように思える。戦前の内務官僚の復活か、「先祖がえり」といったらしいのか。いや、ずーとしぶとく生き続けているのかも知れない

岐阜 福井信郎

文藝・浮世うた

川柳

見もせずに国民の目線と良く云うよ 岐阜県 鈴木徳治
今年の「年金一揆2008むしる旗川柳」に多治見支部員が優秀作品に選ばれました(一作品です)。

安心も安全もない金もない
西濃支部 トシエ
失言は本心と誰も知っている
西濃支部 精司
まめな会元氣もらいに早出する
岩村分会 田口秀子
朝晩に佛拜んで年を取り

詩 かぜものがたり

草を揺らしながら
散歩している
ほほえみ
梢のあいだをくぐり抜けながら
走つていく
がんばり
蜘蛛のアミを
忍び足で通り過ぎていった
ため息



白い雲と
旅をしている
あこがれ
むすうの目が見ている
だれもない
のに
多治見 岩井昭

先号のつづきです。

審査会へ口頭陳述

後藤 金夫 77歳

法事といえども一つ、余りつき合ひの多くない友人が隣にいたが、その友人は「今まで業者団体の推薦の自民党か選挙で投票しなかったが今度に入れん、この保険は何だ」と怒っていました。今、全国で同様の怒りが上がっています。

ここに8月11日付けの毎日新聞を持ってきました。投書欄です(横浜市71歳、男性)。後期高齢者医療制度が始まっ

たがまだ国民に理解されていなく、政府は各紙に全面広告を出している。この政策はきわめて論理的で、分かりやすい。すなわち、今後医療費の増加が予想される!その増加の多くは高齢者の医療費である。従つて、高齢者の医療費を減らすべきである!このためには高齢者を区別して医療の質を落とす。要するに病気の高齢者に早く死んでもらえれば医療費削減につながるというのである。これを分かりやすくしているのは、この政策が高齢者のためのものだとなし強弁するからである。平素おとなしい国民がこれほど怒っているのは、その内容が分かっ

秋野菜と言えは大根と白菜である。春野菜と違つてあき野菜は種をまく時期がむずかしい。早すぎると虫がつきやすくなり、おそいと気温が下がった場合には成熟しないことになつてしまう。

私の場合、白菜の播種(はしゆ)は8月中旬で、知り合ひの温室内で育ててもらい、9月上旬に移植して入る。大根は8月27日、9月2日、9日と3回まいりた。大根は10月18日から順次食べている。

白菜は9月4日、穴にオルトラン粒剤(殺虫剤)をまいて移植し、防虫ネットをかけておいた。

最近地球温暖化で10月もあたたかく、虫に食われてしまふことが多い。大根にはダイアジノン粒剤を播種時にまき、白菜、キャベツ、ブロッコリー、カブには防虫ネットを掛けざるをえない。

試行錯誤の野菜づくり ②

それでも土の中にいる虫やネットが窮屈になつて取り外してからも虫がつくと防除できない。料理する妻は「目に見えない農薬よりも安全である」と言つてくれる。

今年は隣の親切な農家の人に教えてもらったことをやっている。それは大根と白菜が成長するにつれ、外側の葉っぱが地面についてべと病になりやすいし、風通しも悪くなるから順次取り除くことで2回収り除いた。

ブロッコリー、キャベツ、レタスは8月11日にポットに播種したが、レタスはなかなか芽が出てこない。風で飛んでしまふような軽いレタスの種をまいた後に土をかけると思ひが出てこなかった。

恵那 加藤昌宏



口頭陳述を聞いて

上 宗治

当日は25人、全員傍聴でき、9人の鋭い陳述ができた事に「喜びと面白さ」を感じました。なぜ「喜びと面白さ」を感じたのかと考えてみました。5つあります。

- ①一般市民である我々が、県当局に直接掛け合うことが当然のごとくの様、出来たことに。
- ②活動の場が、県の建物の中で県の担当者と顔を見ながら陳述と傍聴ができたことに。
- ③仲間の陳情者が、それぞれ、物怖じもなく、厳しい生活と不条理な医療制度の訴えに。
- ④不服審査請求「口頭意見陳述」で法律に基づいた行動の体験学習ができたことに。
- ⑤国の年寄り虐待制度に対し年金者組合が立派な抵抗勢力に育つていくことに。

このことを実感したから「喜びと面白さ」を感じたと思ひました。